二次元ハンドスキャナ

ＮＩ３６０１ＵＳＢ

取扱説明書

Ver.1.0

インタフェース：ＵＳＢキーボード
ＵＳＢ仮想ＣＯＭ

NICHIEI INTEC

はじめに

このたびはレーザスキャナ　NI3601USB　をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、NI3601USB の外部機器との接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、初めて NI3601USB を使用する前に必ずお読みください。

ご注意

(1)　本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。

(2)　本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

(3)　本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い申し上げます。

(4)　本書に基づいて NI3601USB を運用した結果の影響については、前項(3)にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださるようお願い申し上げます。

商標について

Microsoft® Windows®は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

安全上のご注意 **1**

スキャナ外観図 **3**

インジケータ LED 表示について **4**

トラブルシューティング **5**

セットアップ **6**

NI3601USB（USB キーボードインタフェース）のセットアップ 6

設定手順 **8**

出荷時設定 **9**

通信設定 10

CAPS LOCK の設定 10

読取り動作の設定 **11**

読取りモードの設定 11

トリガモード 11

連続モード 11

ターゲットモード 12

読取り可能時間設定 13

キャラクタ間ディレイ時間の設定 14

読取りブザー設定 15

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定 15

読取り時ブザー音の音色設定 15

読取り時ブザー音長の設定 15

読取り時ブザー音量の設定 15

バイブレータ機能の設定 16

デコード多重チェック 17

紙面検知モード 18

オートトリガスタンドモード 18

反転バーコード **19**

データフォーマットの設定 **20**

はじめに 20

プリフィックスの設定 21

データキャリア識別子について 21
データキャリア識別子の付加 21
データキャリア識別子とは… 22
コード別プリフィックス設定 23
サフィックスの設定 26
ターミネータについて 26
ターミネータの解除 26
ターミネータの設定 27
コード別サフィックス設定 28

読取りバーコードの設定 31

全コード種別読取許可(アドオン除く) 31
全コード種別読取禁止 31
コード 39 の設定 32
読取り許可／不許可 32
フル ASCII 変換 32
スタート／ストップキャラクタ転送 32
チェックキャラクタ検証と末尾文字の転送 32
読取り桁数範囲の指定 33
最小読取り桁数の指定 33
最大読取り桁数の指定 33
インターリーブド(INTERLEAVED) 2OF5 の設定 34
読取り許可／不許可 34
チェックキャラクタ検証 34
読取り桁数範囲の指定 35
最小読取り桁数の指定 35
最大読取り桁数の指定 35
インダストリアル(INDUSTRIAL) 2OF5 の設定 36
読取り許可 36
チェックキャラクタ検証 36
末尾文字の送信 36
読取り桁数範囲の指定 37
最小読取り桁数の指定 37
最大読取り桁数の指定 37
マトリクス(MATRIX) 2OF5 の設定 38
読取り許可 38
チェックキャラクタ検証 38

末尾文字の送信 38
読取り桁数範囲の指定 39
最小読取り桁数の指定 39
最大読取り桁数の指定 39
UPC の設定 40
読取り許可 40
UPC-A 設定 41
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送 41
UPC-E 設定 42
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送 42
EAN/JAN の設定 43
読取り許可 43
定期刊行物コード(新雑誌コード)設定 43
チェックキャラクタの転送 44
ISBN 変換 45
書籍二段コードの読取り設定 45
書籍二段コードの読取り有効／無効の設定 45
書籍二段コードのデータ連結出力の有効／無効の設定 45
コーダバー（CODABAR / NW-7）の設定 46
読取り許可 46
スタート／ストップキャラクタ転送 46
チェックキャラクタの検証と末文字の転送 47
読取り桁数範囲の指定 48
最小読取り桁数の指定 48
最大読取り桁数の指定 48
コード 128 の設定 49
読取り許可 49
GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定 49
変換モード1 50
変換モード2 51
変換モード3 52
変換モード4 53
読取り桁数範囲の指定 54
最小読取り桁数の指定 54
最大読取り桁数の指定 54
コード 93 の設定 55
読取り許可 55

読取り桁数範囲の指定 55
最小読取り桁数の指定 55
最大読取り桁数の指定 55
MSI/PLESSEY の設定 56
読取り許可 56
読取り桁数範囲の指定 56
最小読取り桁数の指定 56
最大読取り桁数の指定 56
GS1 DATABAR(RSS 14)の設定 57
読取許可 57
Composite フラグの設定 57
読取り桁数範囲の指定 58
最小読取り桁数の指定 58
最大読取り桁数の指定 58
PDF417 の設定 59
読取許可 59
マイクロ PDF417 の設定 59
読取り許可 59
QR CODEの設定 60
読取り許可 60
MICRO QR CODEの設定 60
読取り許可 60
DATA MATRIX(ECC 200)の設定 60
読取り許可 60
DATA MATRIX(ECC 000-140)の設定 61
読取り許可 61
AZTEC CODEの設定 61
読取り許可 61
MAXI CODEの設定 61
読取り許可 61
その他の設定 62
連結コードの設定 62

保守メニュー 62

ファームウェアのバージョン確認 62

附属書1. フル ASCII バーコード 63

附属書2. 特殊キー対応バーコード 74

サンプルバーコード..... 77

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。

⚠警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味:

△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

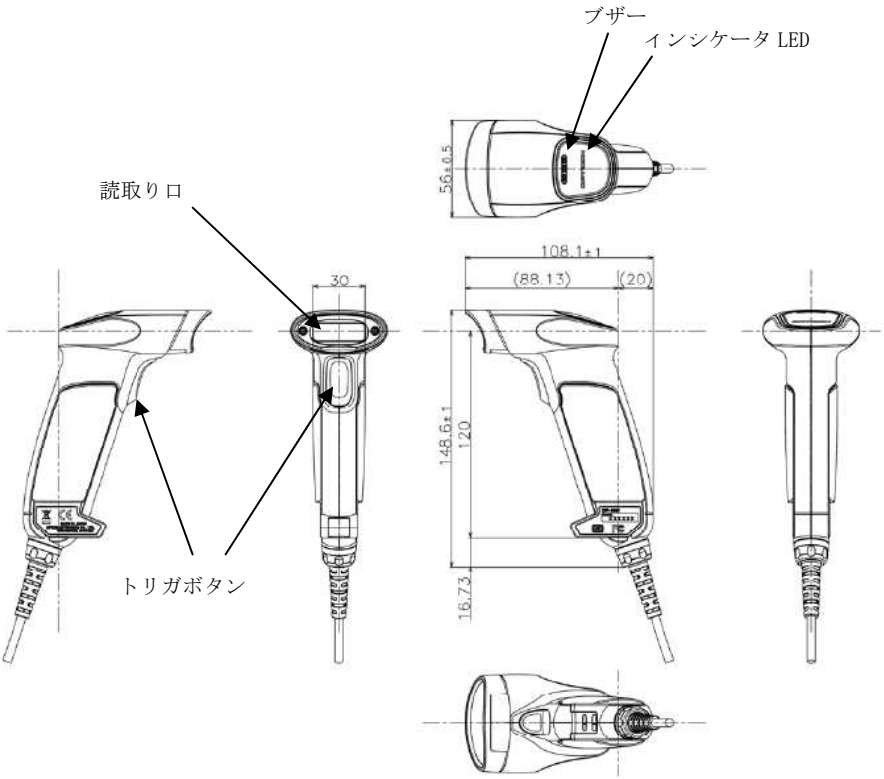
⃠記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

⚠警告	
重要:システム設計者へ ◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。	⃠
◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。 ➢ 煙がでている場合、変なにおいや音がしている場合 ➢ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合 ➢ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合	
◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。 事故や故障の原因になります。	
◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	⃠
◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	⃠
◆ 濡れた手で、インタフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。 感電の原因となることがあります。	⃠

⚠注意	
次のようなことは、絶対に行なわないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。 ➢ スキャナ本体やインタフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いものの下敷きにならないようにしてください。 ➢ スキャナ本体をたたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。 ➢ 不安定な場所に置かないでください。 ➢ インタフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。	

スキャナ外観図


ブザー
インシケータ LED
読取り口
トリガボタン
30
108.1±1
(88.13)
(20)
56±0.5
148.6±1
120
16.73

インジケータ LED 表示について

緑LED、赤LEDでスキャナの活動状態を表示します。

LED の状態	LED インジケータの示す内容
赤・緑 LED 消灯	◆ コンピューターからの電源の供給がない状態。 ◆ 待機状態。(トリガボタンは有効です。)
緑 LED 点灯	◆ ターゲットモードでバーコード検知状態
赤 LED 点灯	◆ 無効メニュー読取り時 ◆ データ送信エラー時
緑 LED1 回点灯	◆ バーコードを正常に読取り完了 ◆ 設定バーコード読取り完了

トラブルシューティング

現象	考えられる原因	解決方法
スキャナにまったく反応がない・LED が点灯しない・ブザー音が鳴らない・レーザが出ない。	◆ 電源が入っていない可能性があります。	マニュアルの「セットアップ」を参照して、スキャナを接続してください。
	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
	◆ スキャナが故障している可能性があります。	
スキャナは機能しているが、バーコードを読取らない。	◆ 読もうとしているバーコードの種類が読取禁止になっている可能性があります。	バーコードの読取許可を行ってください。
	◆ 読もうとしているバーコードの桁数が設定の範囲外になっている可能性があります。	バーコードの桁数を設定してください。
読取音はするがデータが表示されない。	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
バーコードが桁落ちする。	◆ ホスト機器のデータ受信が追いついていない可能性があります。	「キャラクタ間ディレイ時間の設定」を行ってください。

上記をお試しいただいても症状の改善が見られない場合は、故障の可能性がありますので、修理依頼書をご記入の上、修理依頼品と同梱で下記住所へお送りください。

尚、修理ご依頼時の送料はお客様ご負担になりますので、ご了承くださいますようお願いします。

送り先住所:
〒110－0016
東京都台東区台東3－42－5 日栄インテック御徒町第1ビル F2
日栄インテック株式会社 バーコードグループ 修理担当者 宛
電話 03－5816－7141

セットアップ

NI3601USB（USB キーボードインタフェース）のセットアップ

(1)　ドライバのインストール

NI3601USB を初めて PC に接続する際、「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」ドライバのインストールが必要になります。ここでは、WindowsXP SP2 の画面を用いて、インストール手順を説明します。

a)　PC に電源を投入し、Windows を起動します。

b)　スキャナの USB コネクタを、PC の USB ポートに接続します。

※USB ハブは使用せず、スキャナを直接 PC に接続してください。USB ハブを使用した場合、スキャナの動作が不安定になったり、動作しなかったりする場合があります。弊社では、USB ハブの使用はサポート外とさせて頂いておりますのでご了承ください。

c)　スキャナ本体のブザーが「ピロッ」と 1 回鳴り、インジケータ LED がオレンジ色に 1 回点灯します。

※ブザー音がまったく鳴らなかった場合は、一旦 PC の電源を切り、ケーブルの接続を確認してやり直してください。それでも状況が改善されない場合は、巻末に記載の弊社担当窓口までご連絡ください。

d)　PC のディスプレイ画面のタスクトレイに「新しいハードウェアが見つかりました　Barcode Device」のダイアログが数秒間表示された後、自動的にドライバのインストールが始まります。

※OS が WindowsMe 以前の場合は、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。その場合は、画面の指示に従って設定してください。

e)　ドライバのインストールが完了すると、「新しいハードウェアが見つかりました　新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されます。

(2)　読取りテストを行います。

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読取ります。

テストバーコード

カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

設定手順

(1) 変更したいパラメータの記載されているページを開きます。

(2) 『設定開始』バーコードを読取ります。ブザーが「ピロリッ」と 1 回鳴り、一定間隔で「ピッ、ピッ・・・」と鳴り続け、緑色の光が点灯状態となります。

(3) 変更したいパラメータの設定バーコードに緑の光を当ててトリガボタンを引くと読取ります。『設定開始』バーコードを読取ったときと同じブザー音で「ピロリッ」と 1 回鳴ります。

(4) 『設定終了』バーコードを読取ります。ブザー音で「ピロリッピロリッピロリッ」と3回鳴ります。

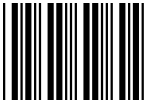
複数のパラメータを変更する場合は、1～3を同様に繰り返します。

※設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

出荷時設定

NI3601USB を出荷時設定(設定項目名に下線が付いている設定)に戻すには、下記の設定バーコードを上から順に読取ります。

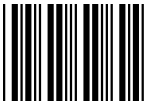
※弊社出荷時には、日本語キーボードにあわせて動作するように、下記の設定を行った製品を出荷しておりますので、前述のセットアップにしたがって接続の上ご使用いただけます。



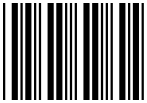
設定開始

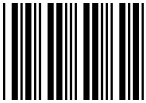
USB キーボードインタフェース

106(日本語)キーボード



設定終了


設定開始


設定終了

通信設定

NI3601USB は出荷時設定のUSBキーボードインタフェース以外にUSB仮想COMに設定することができます。(USB仮想COMとは専用のドライバやアプリケーションを必要とします。データを一括で送信するためデータ量の多い二次元コードでも比較的早くデータを転送することができます。)

USB仮想COM

USBキーボードインタフェース

※USB仮想COMに設定する場合は、先に弊社ホームページより専用のUSBドライバをダウンロードし、インストールを行った上で設定の変更を行うようにしてください。

Caps Lock の設定

『Caps Lock ON』に設定すると、バーコードデータのアルファベットの大文字を小文字に、小文字を大文字に変換します。PC の Caps Lock が ON になっていて、データの大文字と小文字とが逆になってしまう場合に有効です。

『自動 Caps Lock モード』を設定すると、キーボードの Caps Lock 状態にかかわらず、全て大文字で送られます。

Caps Lock OFF

Caps Lock ON

自動 Caps Lock モード

設定開始　　設定終了

読取り動作の設定

読取りモードの設定

トリガモード

トリガモード

トリガモードでは、トリガボタンを押している間、赤色光は発光し読取りを行ないます。バーコードを読取ると発光は消灯します。また、バーコードを読取る前にトリガボタンを放すと発光は消灯します。

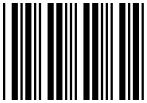
連続モード

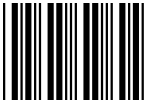
連続モード

※連続モードでは、バーコードを読み取ったあと、133 ページの『読取り可能時間設定』で設定されている時間が経過するまで発光は消灯しません。赤い光が発光している間は続けて読取りを行えます。

※連続モードに設定した状態で、2つのバーコードにレーザをあてた場合、交互に連続してバーコードを読取る場合がありますので、設定時にはご注意ください。

（次ページへ続く）


設定開始


設定終了

（前ページから）

ターゲットモード

『設定開始』→『オートトリガOFF』→『トリガーリピート有効』→『読取り可能時間 0 秒』→『設定終了』の順にバーコードをお読みください。

オートトリガＯＦＦ

トリガーリピート有効

読取り可能時間 0 秒

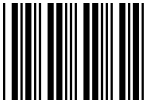
ターゲット読取りモードでは、トリガボタンを押している間は緑色の光を照射し続けます。読取りを行いたいバーコードの上に緑色の光を照射できた時点でトリガボタンを放すと読取りを行います。

※ターゲット読取モードを設定した状態で、18 ページの『紙面検知モード』を設定すると、バーコード検知のみで読取りができなくなります。『紙面検知モード』を有効にする場合は、ターゲット読取モードの設定は行わないでください。

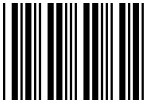
※上記設定を行った場合、他の設定が行えなくなるので設定を行う際は、最後に設定するようにしてください。出荷時設定も行えませんので下記二次元コードにて出荷時状態に戻してください。

ＵＳＢキーボード出荷時設定
（日本語キーボード設定含む）

ＵＳＢ仮想ＣＯＭ設定



設定開始



設定終了

読取り可能時間設定

指定した時間内にバーコードを読み取れない時に自動的に読取り動作を停止する機能です。

0 秒

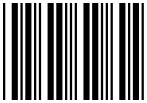
1 秒

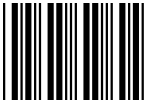
2 秒

4 秒

6 秒

読取り時間 10 倍


設定開始


設定終了

キャラクタ間ディレイ時間の設定

PC／ホスト機器の受信処理が遅い場合、1つ1つのキャラクタ送信間にディレイ(遅延)を発生させることで確実にデータを送信する機能です。

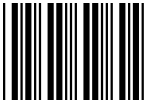
キャラクタ間ディレイなし

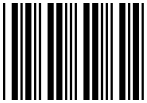
ディレイ 20 ミリ秒

ディレイ 50 ミリ秒

ディレイ 100 ミリ秒

ディレイ 150 ミリ秒


設定開始


設定終了

読取りブザー設定

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定

ON

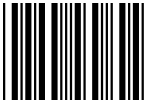
OFF

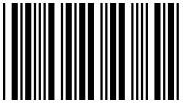
読取り時ブザー音の音色設定

単音

複音

読取り時ブザー音長の設定


100 ミリ秒


75 ミリ秒

50 ミリ秒

400 ミリ秒

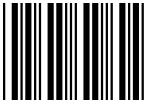
読取り時ブザー音量の設定

最大

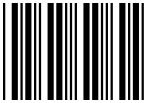
中

大

小



設定開始



設定終了

バイブレータ機能の設定

《読取り時のバイブレータ設定》

無効

有効

《起動時のバイブレータ設定》

無効

有効

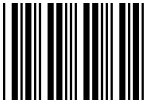
《振動時間の設定》

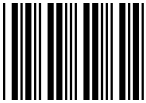
50msec

200msec

100msec

400msec


設定開始


設定終了

デコード多重チェック

1 回の読取り動作で、自動的に 2 回以上連続して読取り、その結果を照合することにより、データの信頼性を高めます。照合結果が規定回数一致した段階で、ホストにデータを転送します。

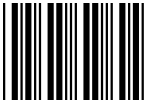
照合回数を上げる方が誤読の発生を抑えることが可能となりますが、回数を上げるほど品質の悪いバーコードは読取りしずらくなりますので上げ過ぎにはご注意ください。

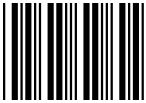
照合回数 0 回

照合回数 1 回

照合回数 2 回

照合回数 3 回


設定開始


設定終了

紙面検知モード

スキャナの紙面検知(オートトリガ)モードの有効・無効を設定します。紙面検知モードが有効の状態では、レーザが点状態で照射され、紙面が検知されると通常のレーザ照射になり、読取り可能になります。

※動作モードで、12 ページの『ターゲットモード』を設定した場合、『紙面検知モード』を有効にすると、バーコード検知のみで読取りが行われなくなります。紙面検知モードでご利用の場合には、『ターゲットモード』を無効にしてください。

紙面検知を無効にする

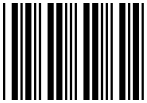
紙面検知を有効にする

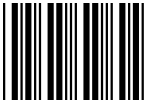
オートトリガスタンドモード

紙面検知を有効にした状態で、オートトリガスタンド検知を有効にすると、オートトリガスタンドに設置した場合のみ、紙面検知の状態になります。オートトリガスタンドから外して使用すると、通常の読取りモードの設定で選択した動作モードで動作します。

オートトリガスタンド検知を有効にする

オートトリガスタンド検知を無効にする


設定開始


設定終了

反転バーコード

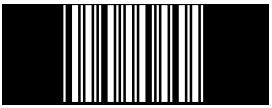
通常、バーコードは白地に黒で印刷されますが、希に黒地に白で印刷されたものもあります。この黒地に白で印刷されたものを反転バーコードといい、読取りが難しいバーコードになります。

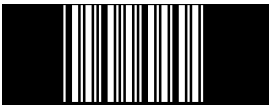
この設定は、反転バーコードに特化して、読取り易くする設定になります。ただし、『反転バーコード読取り』設定を施すと、通常のバーコードが読みづらくなります。

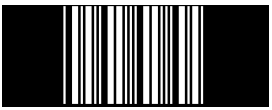
通常バーコード読取り

反転バーコード読取り

通常および反転バーコード読取り


通常バーコード読取り（反転読取り設定時用）


通常および反転バーコード読取り（反転読取り設定時用）


設定開始/設定終了（反転読取り設定時用）

設定開始　　設定終了

データフォーマットの設定

はじめに

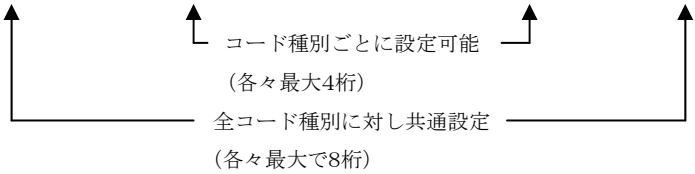
NI3601USB は、各バーコード種別ごとに、任意のキャラクタをデータの前後に付加することができます。

プリフィックス(データ前に付加するキャラクタ)およびサフィックス(データ後に付加するキャラクタ)を、それぞれ最大 4 キャラクタずつ設定できます。

また、全コード種別に対して共通のコモンプリフィックスおよびコモンサフィックスを、それぞれ最大 8 キャラクタずつ設定できます。

データに対するコモンプリフィックス、コモンサフィックス、プリフィックス、サフィックスの付加位置は次の通りです

［コモンプリフィックス］［プリフィックス］［データ］［サフィックス］［コモンサフィックス］



設定開始　　設定終了

プリフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、23 ページからの『コード別プリフィックス設定』バーコードを読取り、巻末 63 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読取ります。プリフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンプリフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

データキャリア識別子について

データキャリア識別子の付加

JIS X 0530:2003 に準拠したデータキャリア識別子を、コモンプリフィックス、コモンサフィックスおよびプリフィックス、サフィックスに付加することができます。

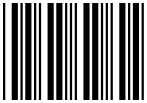
下記二次元コードを読取るとプリフィック又はコモンプリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加して出力するようになります。(これ以外の場所に付加したい場合や種別コード別に付加したい場合は、裏ページのアドレスにお問い合わせください。)

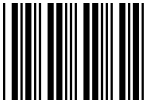
プリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加する

コモンプリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加する

※上記の二次元コードでの設定には上下のバーコードを読む必要はありません。
※プリフィックス及びサフィックスとして付けるデータキャリア識別子は、最大4キャラクタ、コモンプリフィックス及びコモンサフィックスの最大8キャラクタに対し、1キャラクタ分を使用します。

(次ページへ続く)


設定開始


設定終了

（前ページから）

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータをPC／ホスト機器に送信する際に付加するIDで、シンボル体系の種類の他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000年にISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では2003年にJIS X 0530『データキャリア識別子（シンボル体系識別子を含む）』としてJIS規格化されました。

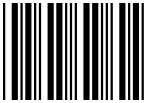
例）コード39の”C+O+D+E39”というバーコードを読取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合：

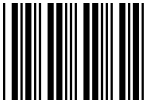
1. フルASCII処理をしないでデータ送信…　]A0C+O+D+E39
2. フルASCII処理してデータ送信……　]A4Code39

データキャリア識別子の内容：
]：データキャリア識別子を示すフラグ
A：コード39を示すコードキャラクタ
0：『チェックキャラクタ検証もフルASCII処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ
4：『フルASCIIキャラクタ変換を実行／チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※詳しくは、JIS X 0530『データキャリア識別子（シンボル体系識別子を含む）』をご参照ください。

（次ページへ続く）


設定開始


設定終了

(前ページから)

コード別プリフィックス設定

UPC-A

UPC-E

EAN13/JAN13

EAN8/JAN8

コード 39

全コード

UPC-A アドオン

UPC-E アドオン

EAN13/JAN13 アドオン

EAN8/JAN8 アドオン

Matrix 2of5

(次ページへ続く)

設定開始

設定終了

(前ページから)

Interleaved 2of5

コード 93

MSI/Plessey

GS1 Databar

Code11

Codabar(NW7)

Industrial 2of5

コード 128

GS1-128

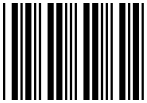
POSTNET

IATA

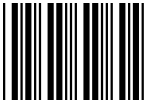
※プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全プリフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンプリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンプリフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。

(次ページへ続く)



設定開始

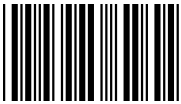


設定終了

(前ページから)

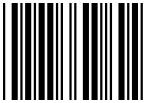
Data Matrix

Maxi code

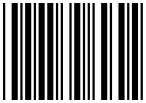


Aztec

Chinese Sensible Code



コモンプリフィックス



QR Code

PDF417

MicroPDF417

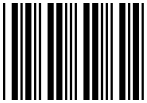
Codablock-F

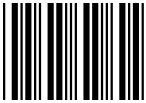
Composite Code

全プリフィックスのクリア

※プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全プリフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンプリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンプリフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。


設定開始


設定終了

サフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、28 ページからの『コード別サフィックス設定』を読取り、巻末 63 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読取ります。サフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンサフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

ターミネータについて

NI3601USB では、ターミネータをサフィックスとして設定します。初期設定の状態では、ターミネータとして「Enter」が、全コード種別に対するサフィックスに設定されています。

したがって、新たにサフィックスの設定を行う場合は、最後に「Enter」を付加しないと、設定を行ったバーコード種別に対して「ターミネータなし」の状態になります。

※サフィックスに設定できるのは、ターミネータを含め 4 キャラクタ分ですので、キャラクタ数が不足する場合は、ターミネータをコモンサフィックスへ設定することをお勧めします。

設定例:コード 39 のサフィックスに「1234」を付加し、ターミネータに「Enter」を設定する。

『設定開始』→『全コード種別のターミネータ解除』→コード別サフィックス設定『コード 39』

→フル ASCII バーコード『1』、『2』、『3』、『4』→コード別サフィックス設定『コモンサフィックス』

→ターミネータ設定『Enter』→『設定終了』

ターミネータの解除

『設定開始』バーコードを読んだあと、『全コード種別のターミネータ解除』を読取り、『設定終了』を読み取ります。

全コード種別のターミネータ解除(全サフィックスクリア)

(次ページへ続く)

設定開始　　設定終了

(前のページから)

ターミネータの設定

下記の二次元コードを読むことでターミネータの設定を変更することができます。

Enter　　Tab

なし　　実行（右 Ctrl）

※上記二次元コードを読む際に上下の『設定開始』『設定終了』のバーコードを読む必要はありません。

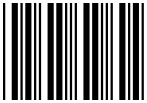
※ターミネータはサフィックス内に設定されています。このためコモンサフィックスに設定を行った場合は、上記の『なし』の二次元コードを読んでターミネータの設定を削除しないと残ったままになってしまいますのでご注意ください。

※サフィックスに設定を行った場合、ターミネータの設定は消えてしまいますのでターミネータの設定も残したい場合は、サフィックスの設定時に追加して設定を行うようにしてください。

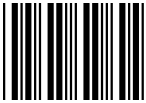
例）ターミネータの『Enter』を残したい場合

サフィックスに追加するもの＋『Enter』でサフィックスに設定する。

※その際は、上記の二次元コードではなくＰ６０ページからの『附属書１．』内のバーコードを読ませてください。



設定開始



設定終了

コード別サフィックス設定

UPC-A

UPC-E

EAN13/JAN13

EAN8/JAN8

コード 39

全コード

UPC-A アドオン

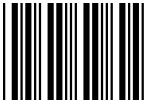
UPC-E アドオン

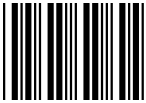
EAN13/JAN13 アドオン

EAN8/JAN8 アドオン

Matrix 2of5

(次のページへ)


設定開始


設定終了

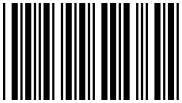
(前のページから)

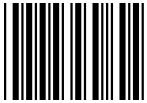
Interleaved 2of5

コード 93

MSI/Plessey

GS1 Databar


コード 11


Codabar(NW7)

Industrial 2of5

コード 128

GS1-128

PDF417

IATA

※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全サフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンサフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンサフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。

(次ページへ続く)

設定開始

設定終了

(前のページより)

Data Matrix

Maxi code

Aztec

Chinese Sensible Code

コモンサフィックス

QR Code

PDF417

MicroPDF417

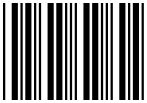
Codablock-F

Composite Code

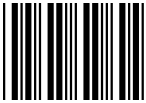
全サフィックスのクリア

※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全サフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンサフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンサフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。



設定開始



設定終了

読取りバーコードの設定

全コード種別読取許可(アドオン除く)

読取るバーコード種別がわからないときに設定してください。ただし、この設定を施すと、予期せぬバーコードを読取ったり、バーコードに近似した波形となるものをバーコードとして認識する場合がございます。

バーコードの種別がわかった時点で、読取るバーコード種別のみ読取許可の設定を施すことをお勧めします。

アドオンを除く全バーコード読取許可

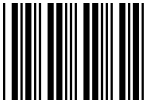
全二次元コード読取許可

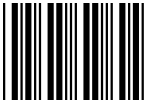
全コード種別読取禁止

全バーコード読取禁止

全二次元コード読取禁止

※“全二次元コード読取禁止”の設定を行うと設定用の二次元コードも読めなくなりますので読取りする場合は、一旦“全二次元コード読取許可”に設定して読ませてください。


設定開始


設定終了

コード 39 の設定

読取り許可／不許可

読取り許可

読取り不許可

フル ASCII 変換

変換する（コード 39 フル ASCII）

変換しない

スタート／ストップキャラクタ転送

転送する

転送しない

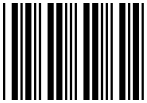
チェックキャラクタ検証と末尾文字の転送

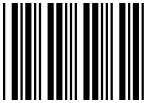
チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない


設定開始


設定終了

コード 39 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 39 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：1 桁）

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定

設定開始　　設定終了

インターリーブド(Interleaved) 2of5 の設定

読取り許可／不許可

読取り許可　　読取り不許可

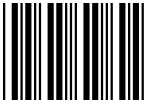
チェックキャラクタ検証

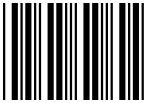
チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない


設定開始


設定終了

インタリーブド 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインターリーブド 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インターリーブド 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：6 桁）

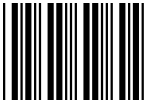
最大読取り桁数の指定

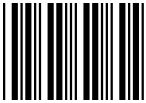
『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインターリーブド 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定


設定開始


設定終了

インダストリアル(Industrial) 2of5 の設定

読取り許可

読取りを許可

読取り不許可

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字の送信

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない

インダストリアル 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インダストリアル 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：5 桁）

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定

設定開始　　設定終了

マトリクス(Matrix) 2of5 の設定

読取り許可

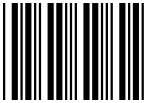
読取りを許可　　読取り不許可

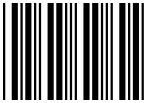
チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタ検証する　　チェックキャラクタ検証しない

末尾文字の送信

末尾文字を送信する　　末尾文字を送信しない


設定開始


設定終了

マトリックス 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するマトリックス 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※マトリックス 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。

読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：5 桁）

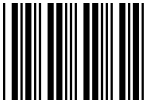
最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するマトリックス 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

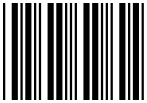
※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

UPC の設定

読取り許可

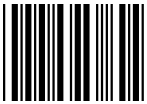
一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

UPC の読取りを許可

UPC の読取り不許可

UPC アドオン 2 桁 の
読取りを許可

UPC アドオン 2 桁 の
読取り不許可



UPC アドオン 5 桁 の
読取りを許可

UPC アドオン 5 桁 の
読取り不許可

（次ページへ続く）

設定開始　　設定終了

UPC の設定(続き)

UPC-A 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送

UPC-A の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送

UPC-A の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送なし

UPC-A の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送

UPC-A の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送なし

(次ページへ続く)

UPC の設定(続き)

UPC-E 設定

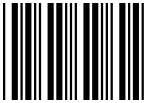
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送

UPC-E の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送

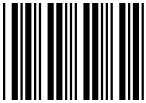
UPC-E の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送なし

UPC-E の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送

UPC-E の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送なし



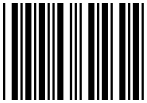
設定開始



設定終了

EAN/JAN の設定

読取り許可



EAN/JAN の読取りを許可

EAN/JAN の読取り不許可

EAN/JAN アドオン 2 桁 の
読取りを許可

EAN/JAN アドオン 2 桁 の
読取り不許可

EAN/JAN アドオン 5 桁 の
読取りを許可

EAN/JAN アドオン 5 桁 の
取り不許可

定期刊行物コード(新雑誌コード)設定

この設定は、「491～」で始まる JAN コードを必ずアドオンつきで送信するための設定です。この設定を施すことにより、「491～」で始まる JANードのアドオン 5 桁を読み落とすことがなくなります

※この設定を行うときは、上記の『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取りを許可』を設定してください。『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取り許可』を設定しないと「491～」で始まる JAN コードを読み取らなくなります。

「491～」 で始まる JAN コードのアドオンを必須

設定開始　　設定終了

JAN/EAN の設定(続き)

チェックキャラクタの転送

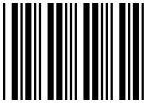
JAN/EAN　13 桁のチェックキャラクタ　転送する

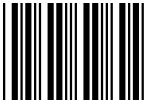
JAN/EAN　13 桁のチェックキャラクタ　転送しない

JAN/EAN　8 桁のチェックキャラクタ　転送する

JAN/EAN　8 桁のチェックキャラクタ　転送しない

(次ページへ続く)


設定開始


設定終了

JAN/EAN の設定（続き）

ISBN 変換

図書コードを読取ったときに、ISBN に変換して転送することができます。

ISBN 変換する

ISBN 変換しない

書籍二段コードの読取り設定

書籍に二段で印刷されている下記のバーコードのみ有効な設定となります。

・先頭が”978“の EAN-13（一段目のバーコード）

・先頭が”191”または”192”のInstore-13（二段目のバーコード）

書籍二段コードの読取り有効／無効の設定

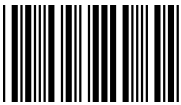
下記設定をすることで一段目のバーコードを読み込んだだけでは出力せず、二段目も読み取った後で一括してデータを出力するようになります。（但し、データは2行で出力されます。）

無効

有効

書籍二段コードのデータ連結出力の有効／無効の設定

下記設定をすることで一段目のバーコードを読み込んだだけでは出力せず、二段目も読み取った後でデータを連結して一括データを出力するようになります。（二段目を先に読んでも一段目が前に来て連結されます。）


無効（データを連結しない）

有効（データを連結する）

設定開始　　設定終了

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定

読取り許可

読取りを許可　　読取りを不許可

スタート／ストップキャラクタ転送

A, B, C, D/A, B, C, D で転送する

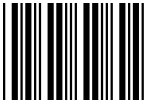
a, b, c, d/a, b, c, d で転送する

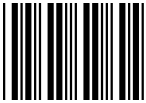
a, b, c, d/t, n, *, e で転送する

A, B, C, D/T, N, *, E で転送する

転送しない

(次ページに続く)


設定開始


設定終了

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定(続き)

チェックキャラクタの検証と末文字の転送

チェックキャラクタを検証しない

チェックキャラクタを検証する(モジュラス 10 ウエイト 1/ウエイト 2)

チェックキャラクタを検証する(モジュラス 11)

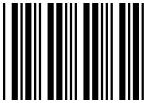
チェックキャラクタを検証する(モジュラス 16)

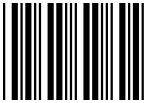
チェックキャラクタを検証する(7 チェック)

末文字を転送する

末文字を転送しない

(次ページに続く)


設定開始


設定終了

コーダバー（Codabar/ NW-7）の設定（続き）

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコーダバー(Codabar/NW7)のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コーダバー(Codabar/NW7)では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：1 桁）

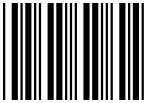
最大読取り桁数の指定

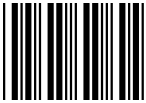
『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコーダバー(Codabar/NW7)バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定


設定開始


設定終了

コード 128 の設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取りを許可

読取り不許可

GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定

コード 128 のバーコードで、スタートキャラクタに続く第一シンボルキャラクタが<FNC1>のとき、GS1-128(UCC/EAN128)のバーコードとみなしてデータを転送するか、単なるコード 128 のバーコードとしてデータを転送するかを設定できます。

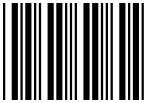
GS1-128(UCC/EAN128)として転送する場合、4 種類の変換モードを選択できます（次頁以降）。ただし、GS1-128 変換モードを有効にすると、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 は読取無効になります。

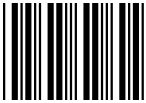
GS1-128 変換モードを有効にした際に、通常のコード 128 も読み取りたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効」に設定します。

GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効

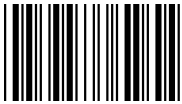
設定変更後、再び出荷時設定に戻すには、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効」に設定します。

GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効


設定開始


設定終了

GS1-128 変換モード 1～4 のいずれかを有効にした後で、変換モードを無効にしたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128(UCC/EAN128)無効」に設定します。


GS1-128(UCC/EAN128)無効

変換モード1

GS1-128 の AI を()で括って出力するモードです。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

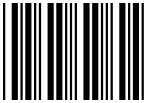
↓

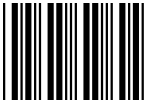
出力データ

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456 “ENT”

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 1』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

GS1-128 変換モード 1


設定開始


設定終了

変換モード2

読取りデータから AI を取除き、指定した区切り文字で出力します。

小数点の指定があるデータを読取った場合は、小数点を付加して出力されます。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

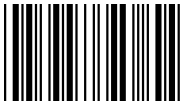
↓

出力データ

14912345678904 “TAB” 990101 “TAB” 1000 “TAB” 1234567890123456 “ENT”

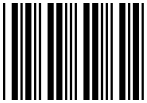
※区切り文字に”TAB”を設定

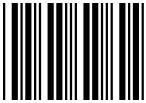
『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。


GS1-128 変換モード 2

区切り文字設定

『区切り文字設定』を読み取ったあとは、63 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って、『設定終了』を読み取ります。


設定開始


設定終了

変換モード3

先頭の FNC1 を”]C1”に変換、2 つ目以降の FNC1(可変長データの終端)を”Ctrl＋]”に変換します。

出力データに AI は含まれます。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

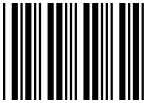
↓

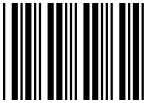
出力データ

“]C1” 01149123456789041799010130100 0 ”Ctrl+]” 101234567890123456

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 3』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

GS1-128 変換モード 3


設定開始


設定終了

変換モード4

2 つ目以降の FNC1 を任意のキャラクタに変換して出力します。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

01149123456789041799010130 1000 ”F1” 1234567890123456

※2 つ目の FNC1 に”F1”を設定

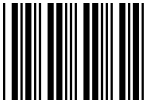
『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。

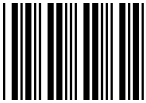
GS1-128 変換モード 4

先頭”]C1”を出力しない

FNC1 変換キャラクタ設定

FNC1 変換キャラクタ設定を読み取ったあとは、63 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って『設定終了』を読み取ります。


設定開始


設定終了

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 128 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 128 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定（初期値：1 桁）

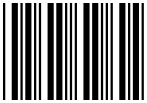
最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 128 バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

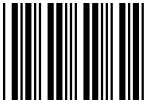
※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

コード 93 の設定

読取り許可

読取りを許可

読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 93 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 93 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

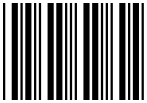
最小読取り桁数の指定（初期値：1 桁）

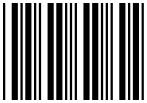
最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 93 バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

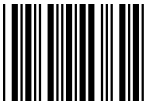

設定開始


設定終了

MSI/Plessey の設定

読取り許可

読取りを許可


読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定する MSI/Plessey のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※MSI/Plessey では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

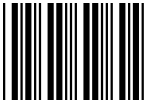
最小読取り桁数の指定（初期値：3 桁）

最大読取り桁数の指定

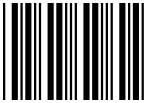
『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定する MSI/Plessey バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定



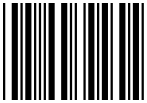
設定開始



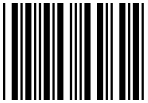
設定終了

GS1 DATABAR(RSS 14)の設定

読取許可



GS1 Databar Omnidirectional(RSS 14)の読取りを許可



読取り不許可

GS1 Databar Limited(RSS Limited)の読取りを許可

読取り不許可

GS1 Databar Expanded(RSS Expanded)の読取りを許可

読取り不許可

Composite フラグの設定

EAN.UCC Composite（合成シンボル）にて、Composite フラグを無視して、DataBar(1 次元シンボル部分)のみ読み取ることができます。

Composite フラグを無視する

Composite フラグを無視しない

GS1 Databar の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定する GS1 Databar のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※最小読取り桁数を上げた後に桁数を下げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最小読取り桁数の指定

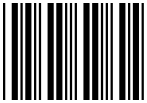
最大読取り桁数の指定

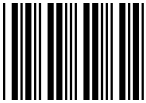
『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定する GS1 Databar バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

※最大読取り桁数を下げた後に桁数を上げる場合、バーコードが読めませんので 9 ページの出荷時設定に戻して頂くか裏表紙の URL にお問い合わせください。

最大読取り桁数の指定

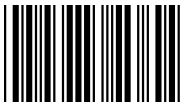

設定開始

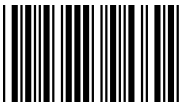

設定終了

PDF417 の設定

読取許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。


読取りを許可

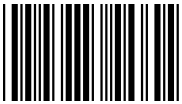

読取り不許可

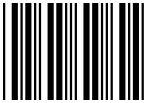
マイクロ PDF417 の設定

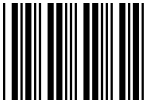
読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取りを許可


読取り不許可


設定開始

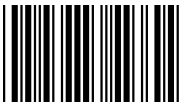

設定終了

QR codeの設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取りを許可


読取り不許可

Micro QR codeの設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取り許可

読取り不許可

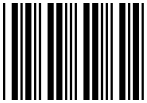
Data Matrix(ECC 200)の設定

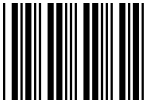
読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取り許可

読取り不許可


設定開始


設定終了

Data Matrix(ECC 000-140)の設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取り許可

読取り不許可

Aztec Codeの設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取り許可

読取り不許可

Maxi Codeの設定

読取り許可

一番右側の許可設定を行うとそれ以外のバーコード・二次元コードは読取り不許可となりますので設定の際は、ご注意ください。

読取り許可

読取り不許可

設定開始　　設定終了

その他の設定

連結コードの設定

1つのデータを複数のコードに分割し、読取り時に連結して出力するコードを連結コードといいます。

NL3601USB は連結してデータを出力する場合の有効／無効の設定が可能です。

有効にする　　無効にする

保守メニュー

ファームウェアのバージョン確認

バージョン確認

『設定開始』バーコードに続いて『バージョン確認』バーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンが、データとしてスキャナから転送されます。『設定終了』バーコードを読取ってください。

※この取扱説明書は、ファームウェアバージョン『BA01J24』以降に対応しています。

設定開始

設定終了

附属書1. フル ASCII バーコード

Ctrl+@

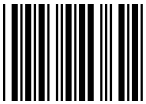
Ctrl+A

Ctrl+B

Ctrl+C

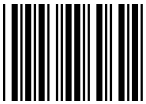
Ctrl+D

Ctrl+E

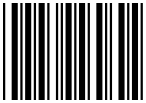


Ctrl+F

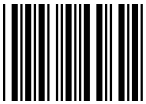
Ctrl+G



Ctrl+H



Ctrl+I



Ctrl+J

Ctrl+K

（続き）

Ctrl+L

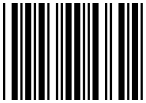
Ctrl+M

Ctrl+N

Ctrl+O

Ctrl+P

Ctrl+Q



Ctrl+R

Ctrl+S

Ctrl+T

Ctrl+U

Ctrl+V

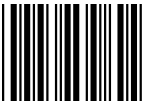
Ctrl+W

設定開始

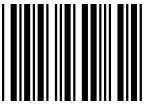
設定終了

（続き）

Ctrl+X



Ctrl+Y



Ctrl+Z

Ctrl+[

Ctrl+\

Ctrl+]

Ctrl+^

Ctrl+_

スペース(空白)

!

“

#

（続き）

$

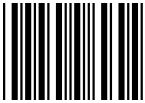
%

&

‘(シングルクォート)

(

)



*

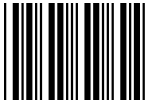
+

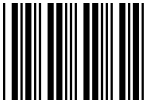
,(カンマ)

-(ハイフン)

.

/


設定開始

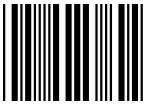

設定終了

（続き）

0

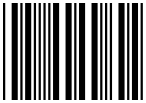
1

2


3

4

5


6

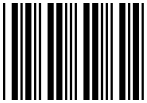
7

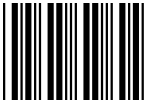
8

9

:

;


設定開始


設定終了

（続き）

<

=

>

?

@

A

B

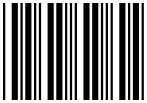
C

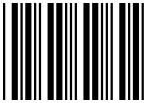
D

E

F

G


設定開始


設定終了

（続き）

H

I

J

K

L

M

N

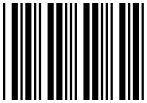
O

P

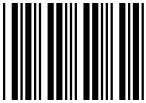
Q

R

S



設定開始



設定終了

（続き）

T

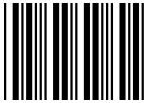
U

V

W

X

Y



Z

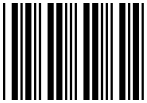
[

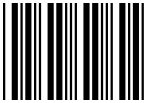
¥

]

^

_（アンダーバー）


設定開始


設定終了

（続き）

`（バッククォート）

a

b

c

d

e

f

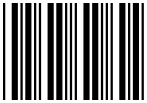
g

h

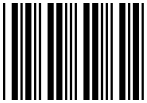
i

j

k



設定開始



設定終了

（続き）

l

m

n

o

p

q

r

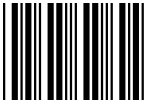
s

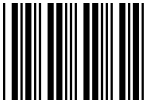
t

u

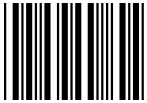
v

w


設定開始


設定終了

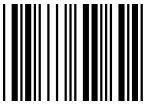
（続き）


~

Ctrl+BackSpace

x

y


z

{

|

}

附属書2. 特殊キー対応バーコード

F1

F2

F3

F4

F5

F6

F7

F8

F9

F10

F11

F12

↑

↓

（続き）

←

→

Caps Lock

Tab

Return

テンキー Enter

Alt 開放

Alt 押下

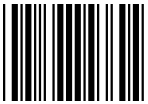
Insert

Home

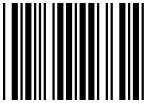
End

Delete

（続き）



Page Up



Page Down

Backspace

左 Ctrl 押下

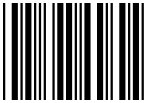
左 Ctrl 開放

右 Ctrl 押下

右 Ctrl 開放

Shift 開放

Shift 押下



Esc

コード識別子(AIM)

バーコード桁数(1D=2 桁、2D=6 桁)

バーコード桁数(1D,2D=6 桁)

サンプルバーコード

JAN / EAN-13

JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁(新雑誌コード)

JAN / EAN-8

UPC-A

UPC-E

コード 39(チェックキャラクタなし)

コード 39(チェックキャラクタ付)

コード 39(フルアスキー)

コーダバー（チェックキャラクタなし）

a123456789a

コーダバー（チェックキャラクタ付）

a123451a

コード 128

NICHIEI-INTEC

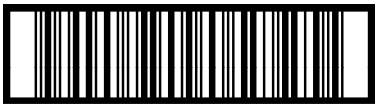
GS1-128（EAN/UCC-128）

（21）060428（11）060525

インタリーブド 2 オブ 5

0123456

ITF-14



14560151181353

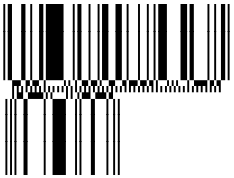
GS1 Databar Omnidirectional

10 815684 00878

GS1 Databar Limited

(01) 0 0614141 00001 2

GS1 Databar Expanded Stacked



(01) 0 0614141 00001 2

PDF417

マイクロ PDF417

QR コード（全角のみ）

日栄インテック株式会社

QR コード(半角のみ)

01234567890

マイクロ QR コード

01234567890

Data Matrix

01234567890

Aztec Code

01234567890

日栄インテック株式会社

開発事業部 バーコードグループ

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第 1 ビル

TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140

E-Mail info@barcode.ne.jp